
[成果情報名] ラーメン用小麦「ちくしW2号」の外観品質、収量が優れる播種期、収穫期

[要約] ラーメン用小麦「ちくしW2号」の外観品質及び収量が高位で安定する播種期は11月下旬で、外観品質が優れる収穫適期は、子実水分が24%以下となる成熟期3日以降である。

[キーワード] ラーメン用小麦、「ちくしW2号」、播種期、収穫期

[担当部署] 豊前分場・野菜水田作チーム、筑後分場・水田高度利用チーム

[連絡先] 0930-23-0163

[対象作目] 麦類

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

福岡県で育成したラーメン用小麦「ちくしW2号」(ラー麦)は、県のブランド品種として普及推進が図られている。民間流通に移行した麦類は、品質に応じたランク区分基準が設けられており、外観品質、収量に大きな影響を与える播種、収穫作業を適期に行うことが極めて重要である。そこで、「ちくしW2号」の外観品質、収量とともに優れる播種適期、収穫適期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「ちくしW2号」を11月下旬に播種すると検査等級は高位で安定し、11月中旬播種や12月上旬播種に比べて収量は多く、年次変動が小さい(表1)。
2. 子実水分が24%以下となる成熟期3日後以降に収穫すると、成熟期の収穫に比べ検査等級が優れる。しかし、収穫開始後は降雨に遭遇すると粒の退色により検査等級が不良となり、多雨条件下では穂発芽が増加し、フォーリングナンバー値が300以下となる(図1、図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「ちくしW2号」栽培マニュアルに登載し、高品質安定生産のための技術資料として活用する。
2. 「ちくしW2号」は、11月中旬に播種すると茎立期が2月上旬と早く、晩霜害の被害を受ける恐れがあるため早播きは避け、他の小麦品種と同様に11月下旬播種とする。
3. 「ちくしW2号」は、収穫適期になったら降雨に遭う前に速やかに収穫作業を行う。

[具体的データ]

表1 播種期と生育・収量・検査等級(豊前分場)

播種年	播種期	茎立期 (月.日)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	穂数 (本/m ²)	倒伏程度	容積重 (g/L)	子実重 (kg/a)	検査等 級
19年	11月中旬	—	4.6	5.31	470	0	813	56.0 a	1等~2等
	11月下旬	—	4.12	6.3	377	0	810	50.8 a	1等
	12月上旬	—	4.16	6.5	351	0	812	44.7 a	1等
20年	11月中旬	2月上旬	3.30	5.24	403	1.8	839	56.4 b	1等
	11月下旬	2.21	4.8	5.28	433	3.5	822	60.2 a	1等
	12月上旬	2.27	4.10	5.30	393	—	828	48.1 c	1等
21年	11月中旬	2.10	4.4	6.1	374	0	802	38.4 b	1等
	11月下旬	2.21	4.10	6.5	466	1.3	819	54.9 a	1等
	12月上旬	3.2	4.13	6.7	455	0.5	822	57.2 a	1等
平均	11月中旬	—	4.3	5.29	416	0.6	818	50.3	1等~2等
	11月下旬	—	4.10	6.2	425	1.6	817	55.3	1等
	12月上旬	—	4.13	6.4	400	0.5	821	50.0	1等

- 注) 1. 施肥量は19年は5+4+2 Nkg/10a、20~21年は5+4+2+4 Nkg/10a。
 2. 茎立期は主茎の節間長が20mmを超えた日とした。
 3. 倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階。
 4. 容積重はブラウエル穀粒計による測定。
 5. 21年の11月中旬播は晩霜害による減収で、被害程度は多。
 6. 各播種年次の異英字間には5%水準で有意差あり(Tukeyの多重比較)。

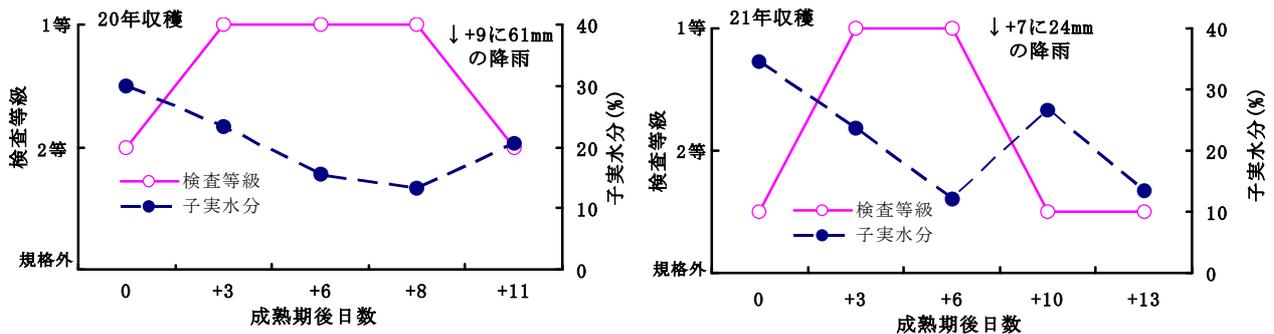


図1 収穫期と品質の関係(豊前分場)

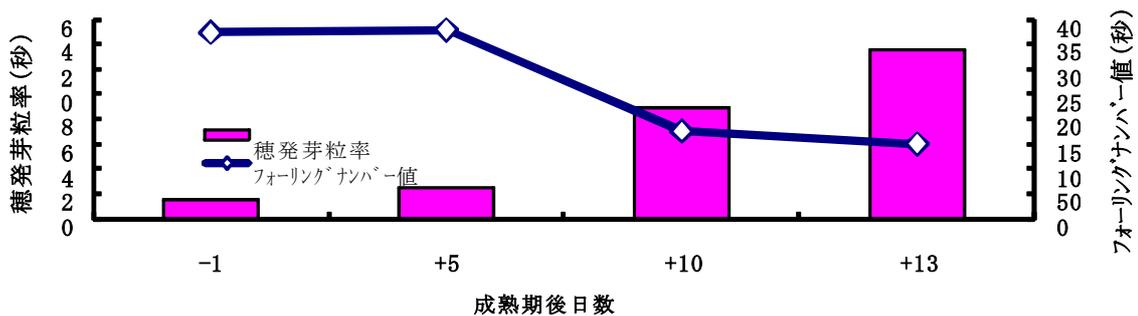


図2 多雨年における成熟期後の品質の推移(豊前分場)

- 注) 1. 平成23年収穫で成熟期は6月4日。
 2. 穂発芽粒率は全粒中に占める見かけの発芽粒の割合を示す。
 3. 成熟期3、7、8、9日後に14.5mm、51.5mm、74mm、109.5mmの降雨あり。

[その他]

研究課題名：ラーメン用小麦新品種「ちくしW2号」の栽培技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成22年度(平成19~23年)

研究担当者：石丸知道、佐藤大和、岩渕哲也、田中浩平